

『心配のときに使う「大丈夫ですか。』』

日野中学校 3年 福岡 玲

ある日、いつものように晩御飯を食べているとき、母が職場であったことを話しました。職場の人が体調を悪そうにしていたので「大丈夫ですか。」と声をかけたそうです。職場の人は「大丈夫です。」と返したといいます。しかし、しばらくしてからさらに体調が悪くなったらしく、早退したそうです。母は、もう少し早く気がついて、気遣っていたら…。と後悔したと言っていました。

家族内では、そのような結果になった原因は「大丈夫ですか。」の一言ではなにかと考えました。確かに、母は心配して声をかけたのでしょう。しかし、相手の立場になって考えたときに本当に体調が悪いときに「大丈夫ですか。」と聞かれ「大丈夫じゃないです。」と言えるのでしょうか。僕なら言うことができません。なぜなら「大丈夫じゃないです。」と答えてしまうと、相手に迷惑をかけるかもしれないと思うからです。つまり、その言葉をかけられた時点で「はい。大丈夫です。」という答えに縛られると考えました。

体調不良かもしれない人によく使う「大丈夫ですか。」という言葉は「気遣ってもらえて嬉しい。」という印象を相手に与えます。一方で「迷惑をかけるかもしれない。」という思いから、本当のことを伝えることができなくなると思います。

では、相手のことを心配して様子を聞きたいとき、どのような声掛けをすることが適切なのでしょうか。それは、2つあります。

1つ目は「大丈夫ですか。」という言葉に他の言葉を付け足すことです。今までの話では「大丈夫ですか。」の一言だけでしたが、相手のことを気にかけるのであれば、まずは、相手の詳しい情報を聞き出すことが重要になります。例えば、病院で診察を受けた場合、医者から症状を聞き出されます。すると、それに応じた処置をしてもらえます。また、生活習慣の見直しなどのアドバイスをするためにも、相手の情報を聞き出すことが大切です。「体調がすぐれないように見えますが、大丈夫ですか。」など、一言付け足すことで、相手を気遣いながらも、情報を聞き出しやすくなると考えます。

2つ目は「大丈夫ですか。」を使わないことです。例えば「体調がすぐれないように見えますが、どうされましたか。」と聞くことで、相手は「はい。」「いいえ。」だけの答えにならず自分自身の状態を伝えることができます。

「はい。」「いいえ。」だけで会話が終わってしまうクローズドクエスションではなく、自由に回答できるオープンクエスションにすることで、会話を広げることができ、相手の詳細を知ることによって適切な対応ができます。結果的に相手の悩みや不安を晴らすことにつながるのです。

人を心配するときによく使う「大丈夫ですか。」という言葉は「気遣ってもらえた。」という印象しか与えることができません。これは話し手側の「気遣っている。」という意思表示であり、相手に負担をかけてしまう可能性のある言葉でもあると気づきました。

もし、あなたが人の体調を心配する場面があったら、自由に回答できるオープンクエスチョンを相手に投げかけるといいでしょう。

心配のときに使う「大丈夫ですか。」は本当に相手のことを気遣ってかけられる言葉なのでしょうか。僕はそう思いません。本当の気遣いとは何かを考えて、行動していきたいです。